

校長室より

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」

2023 合宿訪問記③ ～男・女バレーボール部 in 南会津町～

合宿訪問（8月3日）も3部目で、今回は男・女バレーボール部編です。バレー部はコロナ禍以前から南会津の地で合宿を行っていたそうです。と言っても生徒は皆、初めてですね。

移動は電車を利用して現地入りし、ゆったりとしたシートで快適だったようです。比べて私の移動は超ハード。朝は今回も5時に出発、高速2時間、下道2時間のロングドライブでした。高速を降りて山間部に入ると室外の気温は20度前半、エアコンを切り窓全開で心地よい空気でした。生徒たちも朝晩は随分と涼しく過ごしやすいとのことでした。

体育館は宿から送迎バスで30分ほど離れた地元の公営施設ですが立派。男女一面ずつネットが張れ、男子は楯岡先生、女子は曾根先生、そして全体は永井先生の指導体制です。両顧問ともバレーボール指導の専門家なので、3メンと呼ばれるバック3人の連携レシーブなど練習メニューも工夫されています。技術や体力に応じ、ギリギリ捕れるか捕れないかといったところにボールが飛び、選手が飛びつく場面が見られました。

後半は、アタックの練習で助走やタイミング、ボールのミートの仕方などを確認していました。私も一緒にプレーを試みましたが、随分と競技から離れており、頭と身体がうまく同調せず残念。加えて先日のバドミントンの筋肉痛が辛い。

昼は、宿から弁当が届けられ、体育館の一角で車座になっていただきました。昼の休憩は1時間ほどで午後の練習に入っていました。私からは、「技術・体力の向上、チームワークを磨くこと、特に団体競技は指示の声が大切」と伝えて生徒と別れました。

8月中に“Summer Cup（男子）”や“私学大会”、“夏季大会（女子）”が控えており、成果を見せてくれることを期待しましょう。





## 2023 合宿訪問記④ ～吹奏楽部 in 河口湖～

4番目の部活動訪問(8月4日)は吹奏楽部。河口湖畔から数分ほどの宿で宿舎内に90帖の防音設備の音楽ホールがあり、3泊4日の日程で演奏活動に専念できる環境です。

初日、東京からの移動は比較的スムーズに進んでようですが、音楽ホールが3階でエレベーターが無く、ティンパニーなどの楽器の搬入は一苦勞したようです。でも、これも練習。毎朝のパート練習は自分たちの部屋を利用して行っていました。椅子に腰かけるタイプ、畳に座り込んで取り組むタイプとそれぞれです。

今回の合宿の目的は、8月14日に府中の森芸術劇場で開催される『第63回東京都高等学校吹奏楽コンクール』及び二松祭での発表の二つの演奏発表の練習です。

コンクールは35人で構成されるB組に参加予定で、発表曲は『秘儀IV 行進』という楽曲。この作品はひたひたと忍び寄り行進する魔物のような集団に飲み込まれ、興奮・狂乱そして炸裂し消滅する様子をイメージしているそう。

午前練習の最後に全体を通した演奏を聞かせてくれました。静かな雰囲気から最後は大迫力のある演奏に神戸先生と大きな拍手を送りました。本格的に練習を始めてから一か月程度だけけどかなりのレベルに仕上がっていると齋藤先生と高村先生からの評価を聞きました。コンクールで金賞も狙えるとのこと。さらに演奏を磨いてくれることを期待します。

合宿では、「ミッション(目標)を掲げ、パッション(情熱)をもって、アクション(行動)しよう」と、「3つのション(tion)」を39名の部員に激励の声を掛けました。



### 日本の夏の風物詩

5日は、我が家の近所周辺1kmの地域で、“納涼夏まつり”が3カ所で開かれました。夕刻から浴衣姿の子供や揃いの浴衣を着た地域自治体の女性が会場に向かう姿を見かけました。

夕飯時には、あちこちから盆踊りの音が聞こえてきました。お馴染み超定番の「東京音頭」や「炭坑節」などなど

「ハァー踊り踊るな～らチョイト東京音頭ヨイヨイ  
やーとなあそれヨイヨイヨイ やーとなあそれヨイヨイヨイ」

「月が～出た出た 月が～出た～アヨイヨイ♪」

先日は隅田川の花火大会がそして多摩地区でも立川の花火大会が開催され、4年前まで当たり前だった日本各地での夏の風景が戻ってきたようです。

